

第3次ゆざわジオパーク構想

いにしへの火山の恵み あつき雪

いかして築く歴史と暮らし



令和5年4月

湯沢市ジオパーク推進協議会

目 次

1	構想策定の趣旨	2
2	ゆざわジオパークの将来像	3
3	ゆざわジオパーク活動の目的	3
4	ゆざわジオパークの目標	3
5	活動の施策・手段（行動計画）	5
第3次ゆざわジオパーク構想の基礎資料		
添付資料1	これまでの活動の経緯	9
添付資料2	ジオサイトの保全・保護	10
添付資料3	地域の教育・普及活動	11
添付資料4	学術調査・研究活動	12
添付資料5	ジオツーリズムの促進活動	14
添付資料6	地域経済活動や住民の地域活動の活性化	17
添付資料7	JGN・GGNの活動への貢献	19
添付資料8	ジオパークの運営母体体制	19
添付資料9	年次計画	20
添付資料10	第3次ゆざわジオパーク構想策定委員会の開催経過及び委員名簿	21

1 構想策定の趣旨

ゆざわジオパークは、2012年9月に日本ジオパークネットワークの加盟が認定されました。認定前年の2011年7月に「美の郷ゆざわジオパーク構想」が、5年後の2016年4月に「第2次ゆざわジオパーク構想」が策定されました。

これらの構想は、将来にわたるジオパークの方向性と各種活動の基本方針を湯沢市民や関係組織等に示す道標でした。これまでのゆざわジオパーク活動はこれらの構想に基づいて展開されてきました。

第2次構想策定から7年が経過した現在、ジオパークを取り巻く社会環境の変化や世界ジオパークネットワークの新たな理念や日本ジオパークネットワークが求める趣旨などにより、ゆざわジオパークの活動において新たな課題が生じています。

湯沢市がジオパークを取り組んだ背景を顧み、現在の社会環境の変化やゆざわジオパークの活動実績を踏まえて、今後の活動の礎となる新たな第3次ゆざわジオパーク構想を策定するものです。

* これまでの活動は、添付資料に記載 *



2 ゆざわジオパークの将来像

湯沢市民は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面、接触の活動が制限されてしまいました。そのため、ジオパークの理念とゆざわジオパーク構想・理念に沿った活動を再び活発化し、郷土愛を育み、地域資源の保全・活用に努め、持続可能な地域社会の形成を目指します。

また、ゆざわジオパークの活動を通して湯沢の誇りを次世代へ繋ぎ、日本・世界ジオパークネットワークのブランド力と地域資源を活用して、湯沢市の生活と文化を育み、様々な国や地域の人々との交流を深め、湯沢の人々が「湯沢は夢のある発展のまち」と感じるまちづくりを目指します。

3 ゆざわジオパーク活動の目的

次の3つの目的に沿って、ゆざわジオパークの目標を達成するための施策を確実に実行して、ゆざわジオパークの活動を持続的に行っていきます。

- (1) 湯沢が誇る地質系、生態系、歴史・文化系の地域資源（湯沢の隠れた宝）を再認識し、それらの保全と活用に努め、持続可能な「まちづくり」を目指します。
- (2) 湯沢市の特色である「地熱のまち」、「ゼロカーボン」、「デジタル変革（DX）」を前面に掲げて、未来志向型の活動を実施します。
- (3) ゆざわジオパーク活動を現在の行政主導型体制から市民主体の活動に転換し、運営資金調達の多面化や市民主導型運営体制に移行していきます。

4 ゆざわジオパークの目標

ゆざわジオパークの将来像と活動の目的を達成するために、下記の活動目標を設定します。

(1) 地域資源の価値の再認識と郷土愛の育成活動

地域資源を発掘し、その素晴らしさを再認識し、「湯沢に住んでいて良かった。」と思う誇りと郷土愛を育み、次世代につなげていきます。

- ・ 地域コミュニティとの会話を積極的に続けて、地域資源を掘り起こします。
- ・ 湯沢の素晴らしさに気づき、地域資源を活用する環境を創生します。
- ・ 次の世代が湯沢に住みつき、生活できる社会状況を作り出します。

(2) 地域資源の保全と活用

地域資源の保全と活用に努めて教育や地域社会、産業経済、学術研究等に利活用し、交流人口の増加と活力のある地域社会や経済活動を高めて活気ある「湯沢のまち」にしていきます。

(3) 持続可能な地域活動(SDGs)

地質系、生態系、歴史・文化系のサイトの保全と活用は、ユネスコの「SDGsの17の目標」達成に向けた活動の1つであり、ジオパーク活動を通じてSDGsの普及・啓発と実践に取り組みます。

ジオパーク活動の促進によって、次世代の人材を育成し、子どもたちや地域住民主導の活動に移行し、地域経済の活性化と地方創生の実現を目指し、持続可能な地域振興を図ります。

(4) 湯沢市の標語「地熱のまち“ゆざわ”」の活用

ゆざわジオパークの標語は、いずれも火山・地熱現象をイメージしており、ジオパーク活動を推進していく上で非常に重要な部分を占めています。熱水作用によって形成された特異な景観（川原毛地獄、大湯滝、小安峡大噴湯、大湯の噴湯など）、多様な源泉などの地域資源の視認性やストーリーを活用した実践に取り組みます。

(5) 市民主体によるゆざわジオパークの活性化

湯沢市ジオパーク推進協議会の人員の補強（歴史・文化専門員と地域おこし協力隊の採用）を図ります。

ジオパーク活動に対する市民への啓発活動を早急に実施し、市民参加型のジオパーク活動を目指します。

(6) 財政基盤の強化

ジオパーク活動を持続的に実施していくために、湯沢市ジオパーク推進協議会の財政基盤の強化を図ります。

(7) ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動

将来の湯沢を支える次世代に夢と可能性を持たせるために、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けて段階的に施策を実行します。

5 活動の施策・手段（行動計画）

推進協議会は、ゆざわジオパークの将来像・第3次構想の基本方針（目的）の実現に向けて、明確な目標を定めた上で次の施策（行動計画）を実行していきます。

(1) 地域資源の価値の再認識と郷土愛の育成

① 住民に対して次の活動を進めて、ゆざわジオパークを浸透するように努めます。

- ・ 講演会、各種の講座、地区センターでのイベントの開催
- ・ 活発な広報活動（市の広報紙、ホームページやネットなど）による市民への情報提供
- ・ 地域資源の利用、地場事業者との連携による新商品の開発・販売（例：ジオツアー）

② 調査・研究の推進

研究されていない、あるいは調査や研究不足のサイトが多数あり、学術的研究はまだ十分とは言えないことから、今後も継続的に必要な研究を計画的に実施します。

- ・ 協議会の専門委員による独自の研究活動を積極的に遂行します。
- ・ 研究助成制度の充実を図り、大学や研究機関による学術研究を推進して資料の集積と活用を進めます。
- ・ 秋田大学等との連携協定に基づいた研究や秋田まると地球博物館ネットワーク、秋田県ジオパーク連絡協議会の研究制度、東北ジオパーク学術研究者会議、湯沢市教育委員会などと連携して学術研究を強力に推進します。
- ・ 湯沢市ゼロカーボンシティ宣言に基づき、ゼロカーボンに関連した地域資源の研究の促進を図ります。

(2) 地域資源の保全と活用

① サイト（見どころ）の整理とエリア（サイトの集まり）の設定

ユネスコ世界ジオパークでは、ジオパークの見どころを「サイト」と表現しており、サイトは、地質を見どころとした「地質サイト (Geological sites)」、自然を見どころとした「自然サイト (Natural sites)」、歴史や文化を見どころとした「文化サイト (Cultural sites)」の3種類に分かれています。

ゆざわジオパークでは、先の構想において「ジオポイント」と表現していたものを「サイト」とし、地質・自然・歴史や文化的な価値をそれぞれ再評価します。

また、先の構想において「ジオサイト」と表現していたものを「エリア」とし、地域やテーマごとにまとめたサイトの集まりとして管理します。

② サイトの保全と状況把握

所有者、管理者、地域住民、専門家、法規制の管理者や活用者など、幅広い人々と連携し、継続して適切に保全します。

各サイトの状況を定期的に確認し、過去から現在に至る変化の実態を把握するためのモニタリング調査を実施します。モニタリング調査の際に問題が発見された場合は、関係者と協議の上、改善します。

③ 環境保全設備の整備

必要がある場合、サイトを見るための散策道や安全柵の設置、わかりやすい解説板等の環境保全設備を設置します。

④ 協力体制の確立

計画策定の際は、各サイトの所有者や管理者のほかに、地域住民や専門家、行政、法規制の管理者や活用者まで、幅広い人々の意見を聞きながら、継続的な保護・保全体制を構築します。

⑤ 地域資源の情報収集

地区コミュニティとの交流によるサイト（候補地を含む）の情報収集や出前講座などを通して、隠れた宝やサイトの情報を収集していきます。

(3) 持続可能な地域活動(SDGs)

① SDGsの達成に向けた取り組み

ジオパーク活動にもSDGs達成に向けた貢献が求められていることから、様々な活動を通じてSDGsの普及・啓発と実践に取り組みます。

② ゆざわジオパークかたり隊制度、ゆざわジオパーク認定商品制度

地域資源と関わりのある商品を製造、販売する事業者に対し、これまで以上にジオパークかたり隊や認定商品の制度を周知します。商品と関連サイトを紐づけてジオストーリーに連動した魅力ある商品を地場事業者と連携して発掘、創出し、地域経済の持続的発展を促進します。

③ ジオツーリズムの促進活動

ウィズコロナの社会活動に対応しつつ、多くの方々から訪れたいジオパークとして選んでもらえるような魅力的なツアー商品を開発するとともに、ツアー商品の魅力を存分に伝えるため効果的な情報発信を行います。

また、観光客の利便性向上を図るため、二次アクセスの充実の促進に取り組みます。

(4) 湯沢市の標語「地熱のまち“ゆざわ”」の活用

ゆざわジオパークの標語は、「いにしへの火山のめぐみ あつき雪 いかして築く歴史と暮らし」であり、副標語は「銀で築き 清水と共に歩み 地熱で未来を切り拓く」です。いずれも火山活動をイメージしたゆざわジオパークのキャッチコピーです。また、湯沢市の標語も「地熱のまち“ゆざわ”」です。

湯沢市の特色ある「地熱地帯の諸現象」をジオパーク活動の1つの柱として、次の地域資源を活用し地域社会の活性化に寄与していきます。

- ・ 強酸性からアルカリ性までの異なる泉質の温泉（川原毛河床温泉、泥湯、小安、大湯、秋ノ宮など）
- ・ 噴気・噴湯（川原毛地獄、大噴湯、大湯、荒湯、奥荒湯）
- ・ 熱水作用による奇怪な景観地形（川原毛地獄の白土）
- ・ 地熱地帯特有の植物の自生（ヤマタヌキラン、チャツボミゴケ、硫酸性温泉紅藻など）
- ・ 2か所の地熱発電所（上の岱、山葵沢）

- ・ 地熱やカルデラの解明に役立つ膨大な地下情報（地熱研究のメッカ）

(5) 市民主体によるゆざわジオパークの活性化

3年間停滞していた市民全体の活動の活性化を図るため、次の活動を推進します。

① 広報活動

広報ゆざわへの特集記事の掲載やホームページの活用の充実、マスコミへの情報提供等を行います。

地域全体にジオパークの理念が浸透しきっていない課題に対して、改めて各地域を巡回する等の手段により、その普及度を高めて行きます。

② ホームページの改訂と充実化

現在、ホームページ、ゆざわジオパークポータルやブログ、ツイッターなどのSNSを運用しているが、情報の重複、内容、説明の不足も見られ、どこにアクセスすれば最新で詳しい情報が得られるかわかりづらいことから、ウェブサイトの基盤であるホームページを改訂し、常に更新し、充実した情報を提供します。

③ 住民による周知活動

これまでの市観光・ジオパーク推進課が主導する活動から、推進協議会の構成団体が主体となって進める活動、及びジオガイドや活動に興味のある市民が主導する活動へ移行するように努めます。

これから長期にわたりジオパーク活動を牽引する若年層、中年層の指導者を発掘し、育成していきます。

④ パンフレット等の改良

サイトを紹介したパンフレットやマップ、資料などを最新の知見に基づく内容に改訂します。

⑤ ゆざわ学講座

市民に対するジオパーク活動の周知と生涯学習活動を振興するため、湯沢の魅力とジオパークを学ぶ機会を積極的に設けます。

⑥ ジオパークガイドの養成

ゆざわ学講座の受講修了者やジオパーク検定試験合格者が身近な人や観光客に対して湯沢の魅力を語るができる人材を育成します。

⑦ サイト（ゆざわの見どころ）の学習

学校教育の総合学習等において、サイトを活用した教育活動を推奨し、専門的な知識を有するジオパークガイドを講師とする授業を積極的に取り組んでいきます。

⑧ 教職員の研修

ジオパークを活用した学習は、学校教育における幅広い教科等で取り上げることが可能です。地域の魅力を実感できる学習を進めるために、小・中学校の教職員を対象にジオパークをテーマとした授業づくりとその体験研修に取り組みます。

⑨ ジオパーク検定試験

ゆざわジオパークについて、子どもから高齢者まで多くの人に興味を持ってもらうため、継続して検定試験に取り組めます。

(6) 財政基盤の強化

湯沢市ジオパーク推進協議会の自主財源の確保のため、ふるさと納税の活用、会費制導入、賛助会員募集、オリジナルグッズ販売などについて検討します。

(7) ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動

ユネスコ世界ジオパークの認定に必要な条件を満たすために前述の活動を進めていきます。

秋田県ジオパーク連絡協議会や東北ジオパークブロックとの連携活動をこれまで以上に強化します。

JGNの全国大会やGGNの国際会合等を通してユネスコ世界ジオパークとの連携に取り組めます。国内外の先進的活動や情報を取り入れるとともに、ゆざわジオパーク情報を発信し、ゆざわジオパークの価値の向上と活動体制の強化を進めます。

将来性のあるテーマ「地熱のまち“ゆざわ”」に重点を置いたジオパーク活動を継続し、各種課題を段階的に克服して、次の世代の住民が「世界に誇る湯沢」と感じるまちにしていきます。

添付資料

第3次ゆざわジオパーク構想の基礎資料

添付資料1 これまでの活動の経緯

- 平成22年（2010年）4月 ジオパークに関する研究開始
（先進事例調査、市役所庁内プロジェクトでの研究等）
ジオパークの周知開始（講演会等）
- 平成22年（2010年）11月 ジオサイト候補地学術調査開始
- 平成23年（2011年）3月 湯沢市ジオパーク推進協議会（以下「推進協議会」という。設立
- 平成23年（2011年）5月 ジオパーク構想策定開始（構想策定委員会設置）
事務局体制確立（市にジオパーク推進室設置）本格的に各種活動を開始
- 平成23年（2011年）6月 市広報、インターネットブログでの情報発信開始
- 平成23年（2011年）7月 「美の郷ゆざわジオパーク構想」決定
- 平成23年（2011年）8月 日本ジオパークネットワーク（以下「JGN」）に準会員として登録
- 平成24年（2012年）1月 ロゴマークとキャラクターの決定、公表
- 平成24年（2012年）4月 JGNへ加盟申請することを決定、申請書提出
- 平成24年（2012年）6月 三途川化石資料室開設
- 平成24年（2012年）9月 JGN加盟認定（正式にジオパークとなる）
- 平成24年（2012年）11月 研究機関である秋田大学と湯沢市が連携協定締結
- 平成25年（2013年）2月 JGN認定記念フォーラム開催
- 平成25年（2013年）7月 三途川化石資料室リニューアル
（ゆざわの大地の歴史コーナー設置）
- 平成25年（2013年）8月 全体ストーリー構築委員会で全体ストーリー決定
- 平成25年（2013年）12月 認定ジオガイド（16名）が誕生
秋田県ジオパーク連絡協議会が設立
- 平成26年（2014年）2月 ジオパーク学習発表交流会開催
- 平成26年（2014年）3月 「ジオパークかだり隊」（市民応援隊：11事業者登録）
- 平成26年（2014年）4月 ゆざわジオパークガイドの会発足
本格的なガイド付きジオツアー開始（有料）
湯沢市郷土学習資料展示施設開設（化石資料室から）
- 平成26年（2014年）6月 保全方針策定委員会設置（方針策定開始）
- 平成26年（2014年）8月 第3回東北ジオパークフォーラム開催
- 平成26年（2014年）11月 市民研究会「ジオサイト研究会」発足
- 平成27年（2015年）3月 ゆざわジオパーク検定（ブロンズ級）試験開催
- 平成27年（2015年）4月 ゆざわジオパーク保護・保全方針決定
- 平成27年（2015年）5月 推進協議会専門員の採用（1名）
- 平成27年（2015年）10月 ジオパーク構想策定委員会の設置（既構想の見直し開始）
- 平成27年（2015年）11月 JR湯沢駅内に拠点施設「観光案内所」設置
- 平成28年（2016年）2月 「雪国ジオパークフォーラム」開催

- 平成28年（2016年）4月 「第2次ゆざわジオパーク構想」策定
- 平成28年（2016年）12月 JGN再認定
- 平成29年（2017年）11月 推進協議会専門員の採用（生態学系1名）
- 令和元年（2019年）5月 推進協議会専門員の採用（地質学系1名）
- 令和3年（2021年）2月 JGN再認定
- 令和4年（2022年）11月 ジオパーク構想策定委員会の設置（既構想の見直し開始）



検定試験の案内ポスター



旧高松小学校校舎に開設された「ジオスタゆざわ」

添付資料2 ジオサイトの保全・保護

〈現況〉

ゆざわジオパーク活動の初期、多くのジオサイトは自然保護法や文化財保護法、森林法等の法令や関係条例により保全されていました。しかし、法令等規制のないジオサイトもあり、明確な保全方針や保全計画はなく、保全体制が取れていない状況でした。

一方、ジオパーク活動が地域内に普及するにつれて、地域住民が地域のジオサイトを自ら保全していきこうという動きが増加しました。そこで、平成26年（2014年）6月に保全方針策定委員会を設立し、ゆざわジオパーク全体における「ゆざわジオパーク保護・保全方針」を平成27年（2015年）4月に策定しました。

この保全方針に基づいて、全てのジオサイトをリスト化しました。併せてジオサイトの重要度や活用度、ジオサイトの性質別区分（地質系、生態系、歴史・文化系）の階層化を行いました。

〈課題〉

令和3年（2020年）2月、日本ジオパークネットワーク委員会再認定審査結果において、今後の課題として指摘されたジオサイトの整理を進める必要があります。選別されたジオサイトは「ゆざわジオパーク保護・保全方針」に基づいて保全計画を策定し、適切な保全を実施していく必要があります。

添付資料3 地域の教育・普及活動

〈現況〉

湯沢市内の小・中高校における教育活動は、ジオパーク活動当初から重点的に取り組み、これまでに下表の活動を実施しています。

対象	回数											
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
小学校	2	6	15	19	1	2	1	1	1	0	1	0
中学校	0	1	4	4	2	0	2	0	0	1	2	0
高校	0	0	1	3	1	1	2	1	2	3	2	3
教員	1	1	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1
大学	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	2
学校以外	22	21	22	24	14	16	17	18	17	2	4	2
合計	25	30	45	53	22	22	26	24	24	9	11	8
学習発表会	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

※令和2年度（2020年度）、令和3年度（2021年度）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を自粛。

この教育活動を継続してきた結果、湯沢市の学校教育の場ではジオパークを教材として活用しています。また、生涯学習においても出前講座などを通してジオパーク普及活動が図られています。教育・普及活動は着実にジオパークの理念が理解され、徐々に広がっています。

〈課題〉

地域住民のジオパークの理解は、一定程度進んできていますが、地区や年代によってジオパークに対する関心度や活動への関わりに温度差があります。より多くの方々に高い意識を持って積極的に活動をしてもらうために、地域資源の保全と活用の重要性を伝えることができる機会と資料を提供する必要があります。

添付資料4 学術調査・研究活動

〈現況〉

(1) 湯沢市全域の学術調査

ジオパーク活動を始めた平成22年度（2010年度）から平成26年度（2014年度）に湯沢市全域の地質・地形系、人文科学系のジオサイトの現況を調査した報告書を保管しています。この学術調査は、地球科学の専門家で構成される「秋田まるごと地球博物館ネットワーク」に委託して実施されました。

(2) 個別のジオサイトの研究と発表

ゆざわジオパーク内において、秋田まるごと地球博物館ネットワークの会員が、独自にジオサイトの研究を続け、その成果を学会発表や専門誌に投稿しています。

(3) 学術研究等奨励補助金制度

平成27年（2015年）4月から「ゆざわジオパーク学術研究等奨励補助金」制度が創設され、ゆざわジオパークをフィールドとした研究活動に支援を行っています。

これまでの研究実績は20件あり、過去5年間の実績は次のとおりです。

年度	研究テーマ	研究者・機関
平成30年度 (2018年度)	ゆざわジオパークを学校教育において利用するための教材開発	秋田大学 講師 田口瑞穂
令和元年度 (2019年度)	「院内石」および類似する凝灰岩類の帯磁率調査	兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス 五百旗頭真他1名
令和元年度 (2019年度)	稲川ジオサイトにおける段丘の年代と形成過程の解明、および学校教育との連携活動	千葉科学大学 教授 植木岳雪
令和元年度 (2019年度)	修景研究に基づく、「ゆざわ三景」、「ゆざわ八景」、及びみんなでつくるゆざわジオかるたの景観学的研究、及びジオ学習教材の創作	高知工業高等専門学校 准教授 三橋修
令和元年度 (2019年度)	小安峡温泉に生息する未知超好熱性アーキアの分子系統学的研究	北九州市立大学大学院 修士課程 浅松克洋
令和元年度 (2019年度)	ゆざわジオパークにおける陸産貝類相とその進化史の解明	東北大学 学術研究員 山崎大志
令和元年度 (2019年度)	ゆざわジオパークの教育をESD/SDGsの教育としてより一層推進するための基礎情報の取りまとめ及び教材の開発	静岡大学 特任准教授 山本隆太
令和2年度 (2020年度)	帯磁率測定に基づいた歴史的建造物等における石材としての「院内石」分布調査	兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス 理事長 五百旗頭真他1名
令和3年度 (2021年度)	ゆざわジオパークにおける地熱発達史および超臨界地熱資源に関する調査研究	東北大学大学院 修士課程 佐藤颯太
令和4年度 (2022年度)	ゆざわジオパーク内に産するカジカガエル幼生の食性調査	広島大学 助教 井川武

〈課題〉

ゆざわジオパーク内には研究されていないジオサイトや調査や研究が不足しているジオサイトが多数あり、学術的研究はまだ十分とは言えません。今後も研究を実施していく必要があります。

地質系1件、生態系1件、文化・教育系1件の計3件/年（予算額約60万円）とし、継続した調査・研究のテーマを厳選するなど、ゆざわジオパークの深化に役立てる必要があります。

The poster is titled "ゆざわジオパークの礎を築くー6編の地質図幅の統合と編集ー" (Foundations of Yuzawa Geopark: a unification and a compilation of six geological maps published by the Geological Survey of Japan and Akita Prefecture). It lists authors: 佐々木 昭雄¹, 山脇 康平¹, 藤本 幸雄¹, 五井 昭一¹, 千葉 悠永¹, 秋田まると地球博物館ネットワーク (Akita Sasaki¹, Kohei Yamawaki¹, Yukio Fujimoto¹, Syoichi Goi¹, Shohei Chiba¹; ¹: Network of Earth Science Museum for Akita).

2017年度～2019年度の3ヵ年学術研究事業

1. なぜ学術研究が必要だったか？

- ジオパークの基礎資料である“理解しやすい地質図と解説書”がない。
- ゆざわジオパークの地質的特徴とその魅力を発信する科学的情報が少ない。

2. 研究対象地域：6枚の地質図幅が抱える課題

- 発行機関が地質調査所と秋田県庁のため、層区分や地層の色調が異なる(図1)。
- 同じ地質時代でも、地層の名称が違う。どうして呼び名が変わるの・・・？
- 図幅の発行年が1961年～1982年であり、最近の地質情報が少ない。
- 日本列島の形成史と遼沢の大地の地誌。色調とどこが違うの・・・？
- ジオパーク対象地域の80%を覆う火山岩の噴出年代と層序が不明である(図2)。
- 放射年代測定値が記載されていない。どちらの山が古いの・・・？

3. 地層名の統一化と同じ地質時代の地層の色調

同じ地質時代でも地質図幅や地域ごとに地層名称が異なる例(図3)

同じ地質時代の地層で、地質図の色調が異なるため、すぐに理解できない。

4. 遼沢周辺の共通地質層序の確立と地層対比の作業

- 地質図幅、公表文献や地熱調査井のNEDO報告書を詳細に判読し、地質層序、岩相の変化、堆積環境を考察する。
- 化石層の確率と化石に基づく地質時代の同定や堆積環境を考察する。
- 採集した化石標本を専門家に鑑定を依頼し、その解釈・コメントを得る。
- 火山岩類の放射年代値(248点)から噴出年代を特定する(図4)。
- 遼沢周辺の共通地質層序(図5)に基づいて、シームレス地質図(B0版=1650mm×1456mm)を作成する(製図ソフト:Illustrator)。

Figure 1: Comparison of geological maps from different institutions. Figure 2: Geological map showing volcanic rock distribution. Figure 3: Comparison of geological map sheets with different names and colors for the same period. Figure 4: Stratigraphic correlation chart. Figure 5: Unified stratigraphic sequence.

平成 29 年度の「地質図幅の統合と新知見」の学術研究ポスター



講演する今井忠男氏（秋田大学鉱業博物館）



「ゆざわジオパークを学校教育において利用するための教材開発」を発表する山口瑞穂氏（秋田大学教育文化学部）

添付資料5 ジオツーリズムの促進活動

〈現況〉

ジオツーリズムの促進はガイドの養成、案内板・解説板の整備、各種媒体によるジオサイトやモデルコース情報発信、各種イベントや広告媒体等によるPR、ツアー商品の開発など多岐にわたります。

(1) ジオパークガイド養成講座の開催

ガイド養成講座は継続して実施し、令和4年3月までに86名が推進協議会認定ガイドとなりました。この認定ガイドの方々は自主的に「ゆざわジオパークガイドの会」を設立し、ガイド依頼等を一元的に受け付け、引き受けています。

年度	講座名称	開催回数	ガイド認定数
平成23年度（2011年度）	ジオパークガイド養成講座、初級	10回	—
平成24年度（2012年度）	ジオパークガイド養成講座、中級	10回	—
	ジオパークガイド養成講座、初級	10回	
平成25年度（2013年度）	ジオパークガイド養成講座、中級	10回	16人
	ジオパークガイド養成講座、初級	7回	
平成26年度（2014年度）	ジオパークガイド養成講座	10回	17人
平成27年度（2015年度）	ジオパークガイド養成講座	10回	15人
平成28年度（2016年度）	ジオパークガイド養成講座	10回	13人
平成29年度（2017年度）	ジオパークガイド養成講座	11回	4人
平成30年度（2018年度）	ジオパークガイド養成講座	10回	5人
令和元年度（2019年度）	ジオパークガイド養成講座	10回	11人
令和2年度（2020年度）	ジオパークガイド養成講座	0回	0人
令和3年度（2021年度）	ジオパークガイド養成講座	9回	5人
令和4年度（2022年度）	ジオパークガイド養成講座	9回	1人

令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施することができなかった。

平成29年度（2017年度）以降、受講者が減少しています。新型コロナウイルス感染症流行に伴って、公開講座や講演会・シンポジウム、ジオツアーなどが実施できず、ジオパーク活動に対する市民の意識や行動が停滞しています。



ガイド養成講座の座学の部



現地見学（上の岱地熱発電所）

(2) 総合案内看板の設置

総合案内看板は、平成26年度までにJ R湯沢駅や道の駅おがちなどゆざわジオパークの玄関口となる場所に計6基設置しました。

令和3年度(2021年度)に「地熱のまち“ゆざわ”」の視認性向上を図るため、J R湯沢駅前と湯沢横手道路湯沢インターチェンジ付近に総合案内看板を2基設置しました。

設置年度	設置場所	個数
平成24年度(2012年度)	J R湯沢駅前、小安峡大噴湯駐車場	2基
平成25年度(2013年度)	道の駅おがち、J R院内駅前	2基
平成26年度(2014年度)	湯沢市役所前、湯沢市郷土学習資料展示施設内	2基
令和3年度(2021年度)	J R湯沢駅前、湯沢横手道路湯沢インターチェンジ付近	2基

(3) サイトの概要を紹介する解説板の設置

主要なサイトの概要を紹介する解説板の設置は、一部を除いてほぼ完了しました。

設置年度	設置場所	個数
平成25年度 (2013年度)	小安峡大噴湯、川原毛地獄、桁倉沼、苔沼、御幸坑、愛宕鉱泉、十分一御番所跡、松岡鉱山廃水処理場、貝沼、不動滝、稲庭城 鯛状珪石、川原の湯っこ、岩屋堂、湯の又大滝、上ノ岱地熱発電所、歴史を見続けた三本杉、麓沢マイロナイト、皆瀬川河岸段丘、ニッ森、三関扇状地、女滝沢森林浴歩道、力水、湯沢市郷土学習資料展示施設、旧院内村役場倉庫	25基
平成26年度 (2014年度)	大湯温泉、栗駒神水、湯ノ又散策路、川原毛大湯滝、三途川溪谷、目覚めの清水、三途川層露頭(市野橋)	7基

(4) サイトへの誘導板整備

行き方の分かりづらいサイトへの誘導板の整備は出来ておらず、今後設置が必要です。一部のサイトは湯沢駅や道の駅からの道路案内の動画をユーチューブに公開しています。

(5) 情報の発信

推進協議会ホームページ、SNS、ガイドブックやジオサイト巡り用ハンドブック、ジオサイト案内書といった印刷物の発行により対応をしています。

(6) PR活動

仙台圏などでのイベントやキャンペーンにおいて、ゆざわジオパークの宣伝を行っています。その他、市内、県内はもちろん、首都圏で開催されるイベント等にも積極的に出展しています。教育旅行の誘致に重点を置き、情報誌や各種出版物等に広告を出して、PRを行っています。

(7) ツアー商品の開発

ゆざわジオパークの魅力を伝えるツアー商品の開発を続けています。

全国的に新型コロナウイルスへの感染が拡大した時期にはオンラインツアーを実施しました。

〈課題〉

(1) ツアー商品の開発

ジオツーリズムは持続可能な地域社会の形成に向けて欠かせない取り組みであり、継続的にツアー商品の企画を行い、魅力的なツアー商品を開発する必要があります。また、観光客の利便性向上を図るため、二次アクセスの充実の促進に取り組む必要があります。

(2) ジオパークガイドの養成

令和2年度（2020年度）、3年度（2021年度）はコロナ禍によりゆざわ学講座などを開催することができなかつたため、ガイド認定を受験できる人の数が激減しています。この影響で高年齢層のガイドの割合が増加しています。安定した質の高いガイドの提供ができるように若い世代のガイドを確保する取り組みが必要です。

ジオガイドの増員と共に知識レベル維持及び向上を継続的に行っていく必要があります。

(3) 情報の発信

各種情報発信ツールを活用し、最新の情報を適切に発信することで、ゆざわジオパークの魅力伝えていく必要があります。



湯沢インターチェンジ入口に設置された総合案内看板



改訂されたジオサイト解説板



秋田市秋田拠点センターアルヴェで開催された秋田県のジオパーク展

添付資料 6 地域経済活動や住民の地域活動の活性化

〈現況〉

(1) ジオパークかたり隊制度

ジオパークを地域経済活動に活用してもらうために「ジオパークかたり隊」制度を設け、登録事業者の増加に向けた活動をしています。

登録事業者には、のぼり旗やコルクボードを配布するとともに、毎月、ゆざわジオパークのおすすめジオサイト等の情報を提供しています。これらを活用してPRする事業者が増加しています。

かたり隊 登録事業者数	かたり隊登録事業者 職種
51事業者	宿泊施設、飲食店、食品製造業、酒造業、農業法人、小売業、家具製造業、 工芸品製造業、印刷業、塗装業、理美容業、清掃業、不動産業、 ラジオ放送局、NPO法人、高等学校、JR、道の駅、商工団体、観光団体

※令和5年4月1日現在

地域の商品が持つ地域資源とのつながりを地域内外に伝えるとともに、持続可能な地域経済活動を推進するために、令和2年（2020年）にゆざわジオパーク認定商品制度を創設し、現在、12団体の31点の商品を認定しました。

認定商品 登録事業者数	認定商品
12事業者	菓子、乳製品、こうじ、味噌、稲庭うどん、米、地酒、弁当、宿泊プラン

※令和5年4月1日現在

(2) ゆざわジオパーク認定商品制度

地域の商品が持つ地域資源とのつながりを地域内外に伝えるとともに、持続可能な地域経済活動を推進するために、令和2年（2020年）にゆざわジオパーク認定商品制度を創設し、現在、12団体の31点の商品を認定しました。

(3) 出前講座制度

住民の地域活動の活発化に向けて、「いつでも、どこでも」をモットーに掲げて出前講座制度を設けています。ジオパークの理念を理解したことで、地域の「お宝」を再発見し、結果として地域活動が盛んになった地域もあります。

〈課題〉

(1) 持続可能な地域経済活動の進展

ジオパークかたり隊登録事業者及び認定商品を増加させる必要があります。

ジオパークを活用した十分な地域経済活動が展開されるには至っていません。新商品の開発や販売といった持続可能な地域経済活動の進展が必要であります。

(2) 住民の地域活動

住民による地域活動は活発化してきましたが、一部の地域又は一部のグループに止まっています。ゆざわジオパーク全域で高度な地域活動を行っていくことが望まれます。

**ゆざわジオパーク
認定商品募集中!**

※イラストはイメージです。

清沢輝北高等学校
ヨラチエリー

秋田木工(株)
ロッキングチェア

(特)東物フーズ
濃厚ヨーグルト(白)

日本酒

(有)稲庭古栗堂
稲庭うどん

秋田鮎鱈(特)
燗酒 純米大吟醸 白田

(有)わかき菓子店
小豆焼

(有)やまのり商店
栗馬海山弁当

(特)カンパニーアグリ
こまちの朝のこまち米

(特)山内徳助商店
あさなこまち 雄勝産の米

大地が育んだ湯沢市ならではの商品を「ゆざわジオパーク認定商品」として積極的に宣伝します。商品の認定をご希望の方はお気軽にお申し込み下さい。

ゆざわジオパーク認定商品の募集

事業者の皆様！登録しませんか？

ゆざわジオパークかたり隊

「ゆざわジオパークかたり隊(でえ)」は、ジオパーク地域内で事業を行っている皆様、ゆざわジオパークを内外にアピールしていただくことを目指します。
みんなでジオパークの良さを広めながら、交流人口の拡大や地域産業の活性化を目指しましょう！

大募集!

登録者には特典があります!!

- かたり隊入り認定証を頒布
- かたり隊の旗を頒布
- 紹介マップの掲載(今後)
- ガイドによるツアー参加者への紹介

登録講習会開催決定!
詳しくは裏面をご覧ください⇒

ゆざわジオパークかたり隊の募集

添付資料7 JGN・GGNの活動への貢献

〈現況〉

(1) JGNへの貢献

JGN加盟以来、JGN主催の各種大会や研修会にはできる限り参加しています。また、他のジオパークが開催する各種の行事にもできる限り参加しています。また、推進協議会専門員がJGN中期計画策定委員会委員となり、策定に参画しました。

その結果、全国各地のジオパークやジオパークを目指す地域とのネットワークが広まり、かつ深まっています。

(2) 東北ブロック活動、秋田県ジオパーク連絡協議会

東北ブロック地域のフォーラムを主催し、ブロック化に向けた協議に積極的に参加するなど、ネットワーク強化に努めました。また秋田県内の4つのジオパークとジオパークを目指す地域で構成する「秋田県ジオパーク連絡協議会」を立ち上げ、その活動にも積極的に取り組んでいます。

(3) GGNへの貢献

世界とのつながりを持つため、平成29年（2017年）9月に中国で開催されたアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムに現地参加しました。また、令和3年（2021年）12月に韓国で開催されたユネスコ世界ジオパーク国際会議ならびに令和4年（2022年）9月にタイで開催されたアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムにオンライン参加しました。

〈課題〉

JGN、GGNへの貢献活動を行う中で、他地域の先進的取り組みに接し、ゆざわジオパークの活動に活用する必要があります。

添付資料8 ジオパークの運営母体体制

〈現況〉

推進協議会の事務局は現在、湯沢市職員を中心に配置されています。

また、推進協議会の財政基盤は湯沢市からの負担金に頼る状況にあります。

〈課題〉

(1) 事務局体制の強化

長期にわたり充実した組織体制を保つためにも、職員の増員を図る必要があります。

平成30年3月27日に推進協議会組織体制強化検討委員会が提出した「湯沢市ジオパーク推進協議会組織体制強化検討結果報告書」では、持続的にジオパークを推進するために学術知見を有する職員の増員や構成団体から推進協議会事務局への職員派遣により組織づくりを行うべきとしています。

(2) 協議会の財政基盤の強化

活動を長期間継続するために、湯沢市からの負担金以外の財源を確保する必要があります。

「湯沢市ジオパーク推進協議会組織体制強化検討結果報告書」では、構成団体の年会費負担及び賛助会員募集などにより財源確保を図るべきとしていますが、まだ実現していません。

添付資料9 年次計画

実施項目	実施年度				
	R5	R6	R7	R8	R9
地域資源の価値の再認識と郷土愛の育成					
ゆざわジオパークの浸透のための取り組み	○	○	○	○	○
調査・研究の推進	○	○	○	○	○
地域資源の保全と活用					
サイト（見どころ）の整理とエリア（サイトの集まり）の設定		○	○	○	○
サイトの保全と状況把握		○	○	○	○
環境保全設備の整備		○	○	○	○
協力体制の確立		○	○	○	○
地域資源の情報収集		○	○	○	○
持続可能な地域活動					
SDGsの達成に向けた取り組み	○	○	○	○	○
ゆざわジオパークかたり ^{てえ} 隊制度、ゆざわジオパーク認定商品制度	○	○	○	○	○
ジオツーリズムの促進活動	○	○	○	○	○
湯沢市の標語「地熱のまち」の活用					
湯沢市の標語「地熱のまち」の活用		○	○	○	○
市民主体によるゆざわジオパークの活性化					
広報活動	○	○	○	○	○
ホームページの改訂と充実化	○	○	○	○	○
住民による周知活動	○	○	○	○	○
パンフレット等の改良	○	○	○	○	○
ゆざわ学講座	○	○	○	○	○
ジオパークガイドの養成	○	○	○	○	○
サイト（ゆざわの見どころ）の学習	○	○	○	○	○
教職員の研修	○	○	○	○	○
ジオパーク検定試験	○	○	○	○	○
財政基盤の強化					
財政基盤の強化	○	○	○	○	○
ユネスコ世界認定に向けた活動					
ユネスコ世界認定に向けた活動			○	○	○

添付資料10 第3次ゆざわジオパーク構想策定委員会の開催経過及び委員名簿

第3次ゆざわジオパーク構想策定委員会開催状況

	開催年月日
第1回	令和4年11月7日
第2回	令和4年12月16日
第3回	令和5年1月27日
第4回	令和5年3月16日

第3次ゆざわジオパーク構想策定委員会委員

No	所 属	氏 名
1	NPO法人おがちふるさと学校	会田 一男
2	秋田県雄勝地域振興局	斉藤 守
3	湯沢商工会議所	新山 佳明
4	湯沢観光ガイドの会	高崎 眞子
5	皆瀬地域自治組織	小野田 敏昭
6	湯沢市小・中学校長会	沼倉 信之
7	小安地熱株式会社	伊藤 真洋
8	ゆざわジオパークアドバイザー	佐々木 詔雄

第3次ゆざわジオパーク構想

令和5年4月

■発行 湯沢市ジオパーク推進協議会
〒012-8501
秋田県湯沢市佐竹町1番1号
TEL : 0183-55-8195
FAX : 0183-79-5057